

# 仙台市役所新本庁舎低層部等の一体的利活用に関するシンポジウム 開催結果

## 1 開催概要

### (1) 趣旨

- ・新本庁舎低層部等一体的利活用エリアの検討状況について、市民等へ広く周知するとともに、供用開始に向けた機運を醸成することを目的としてシンポジウムを開催した。

### (2) 開催

名称	－仙台市役所新本庁舎低層部等一体的利活用－ せんだい CO-LAB.シンポジウム～協働・共創の場としての低層部～
日時	令和6年7月6日（土）14時00分～16時00分
会場	IDOBA※動画の同時配信を実施。後日せんだい tube でも公開
当日参加者	会場参加者 47名 + 配信視聴者 44名

### (3) プログラム

#### ①新本庁舎低層部等一体的利活用検討会の検討内容の紹介

#### ②ミニレクチャー

「協働・共創の場に向けて～KIITO を事例に」

永田 宏和 氏（デザイン・クリエイティブセンター神戸【KIITO】 センター長/  
NPO 法人プラス・アーツ理事長/株式会社 iop 都市文化創造研究所 代表取締役）

#### ③パネルディスカッション

##### パネリスト

永田 宏和 氏

内川 亜紀 氏（札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長）

馬場 正尊 氏（東北芸術工科大学 教授

/株式会社オープン・エー代表取締役・株式会社 Q1 代表取締役）

坂本 知靖（仙台市財政局次長）

##### コーディネーター

榊原 進（（特非）都市デザインワークス 代表理事）

#### ④質疑応答



## 2 シンポジウム要点

### ①新本庁舎低層部等一体的利活用検討会の検討内容の紹介

- ・コーディネーター榊原より、新本庁舎低層部等一体的利活用検討会（以下、「検討会」と記す。）での検討経緯や内容、作成した低層部等一体的利活用エリアの目指すべき姿のパスについて紹介の後、検討会メンバーの3名からコメントいただいた。

#### ○内川氏

- ・パスのうち、「新本庁舎低層部～表小路線～つなぎ横丁～一番町四丁目（平日）」のアンクルが特に良い。保育園の子ども達が市役所の中で散歩できるなど、さまざまな日常的なアクティビティが生まれている様子が良い。
- ・令和5年度の一体的利活用検討会では札幌の広場の運営をしている身として、どのような視点で札幌市と協議しているのかということ話をした。
- ・低層部を運営する民間事業者には、ただ単に施設の運営をするというよりは、まちに広がりを持っていく役割が求められる。市民との関わりを持つことも重要だが、活動を支える応援団をより多く作っていくことが大事である。

#### ○馬場氏

- ・パスのうち、「市民広場～表小路線～新本庁舎低層部(休日のイベント時)」のアンクルが特に良い。新本庁舎低層部と市民広場を一体的に使うなら、その間にある表小路線も一体的に使えたらいいと思う一方で、この道路を止めるのは相当難しいと思っていた。その中で、仙台市は社会実験を実施し、道路を含めた新本庁舎低層部～市民広場の一体的利活用の風景を目指している。市民からそのような使われ方が良いと思われ、諸問題を解決できたら、本当に実現できるかもしれない。社会実験を通して、第一歩を踏み出そうとする仙台市のチャレンジ精神を感じた。
- ・また、パスで描かれている夜の低層部等一体的利活用エリアの風景が実現すれば、市民度の高さや街の安全性の象徴にもなるのではないかと。
- ・低層部を運営する民間事業者が、運営にとどまらず経営にも関わろうとしているのが非常にエポックであり、新しい公民連携の風景が得られるかもしれないと思っている。

#### ○坂本氏

- ・平成28年度から本庁舎建替プロジェクトは進んでおり、市民とともに新たな時代に向けてチャレンジする市庁舎を作ることをコンセプトとして掲げている。その具体的な内容の一つとして、新本庁舎低層部における市民協働を生み出す交流の場があると理解している。
- ・検討会にオブザーバーとして出席した中で、変化し続けなければいけないということが議論の中で印象に残っている。従来の行政が作った計画に沿って執行していくやり方ではなく、市民や、本日シンポジウムにご参加の皆さまからのご意見をいただき

ながら、具体化していきたいと考えている。

## ②ミニレクチャー

### 「協働・共創の場に向けて～KIITO を事例に」

#### デザイン・クリエイティブセンター神戸【KIITO】 センター長 永田 宏和氏

- ・ 地域に暮らす人がいきいきと豊かに暮らすことを目指す「地域豊穡化」には、「風」「水」「土」の3つの役割とこれらを介在する「種」がある。「土」は市民、「種」は活動やプログラム、「風」は刺激を与えるような外部の専門家、「水」は「種」を育てる地域の各種団体や公民館や児童館などの施設スタッフ、NPO、市や区の職員である。
- ・ 今は、枯れてしまっている「土」にこれまでと同じような「種」を植えても芽が出ないため、「種」自体を植えなくなり、種の生育活動が行われない「土」がどんどん枯れていっている状態である。このような状況を打開するために、「種」を品種改良してより強い種を作り、その「種」を「風」に乗せて持ってきてくれる存在が求められている。そして、受け取った種を育てる水の「人」も肝心である。
- ・ 強い「種」を作る2つの条件として、「不完全プランニング：関わり代があるものを作る、一緒に作る余地を残す」「クリエイティブ思考：魅力化する」が挙げられる。
- ・ KIITO は、生糸検査所だったことが名前の由来となっており、古くて（竣工：旧館 1927年、新館 1932年）大きい（延床面積：新旧館合計 13,779 m<sup>2</sup>）建物である。その中に、大ホールやカフェ、クリエイターのラボ等がある。「子どもから高齢者まであらゆる世代を対象に創造人材を育成する」というスローガンを掲げ、神戸市のさまざまな部局から来る相談に乗り課題を解決できるような、強い種をつくる風としての役割を担っている。
- ・ 最近大事にしている種づくりのセオリーとして、ゴールではなく、その後ろを考えるようにしている。イベントを実施して終わり、ではなく、イベント後の拡がりにより重きをおいて種を作っていくことが重要である。
- ・ KIITO の活動の一つである「ちびっこうべ」では、子どもたちがクリエイターや地元の企業のサポートを受けながら、夢のお店づくり、まちづくり、仕事体験等をしている。キッザニアと似ているが、店や街を一からつくる点で全く異なる。「パンじいプロジェクト」は、リタイアした高齢男性の居場所がないという問題とまちづくりのプレイヤー不足の問題を両方解決できないかと考え、おじいちゃんがプロ級のパンを焼けたらいいのではないかとこの妄想から始まった。さらに、パンじいが子どもたちにパン作りを教え、一緒に屋台のパン屋を作って運営する、といった新しいモデルも作った。このように、場の作り方、人の巻き込み方は無限の可能性があり、誰もがそのプレイヤーになれると思っている。
- ・ 「風」の人を育てる取り組みとして、「+クリエイティブゼミ」を実施している。神戸市の様々な部局からお題をもらい、その解き方を伝授するというもので、これまで幅広いジャンルから 39 のテーマのゼミを実施し、ゼミから生まれた 25 のアクションプランが実現している。行政は課題があっても誰と相談したらいいのかもわからず、悶々

としている人が多い。そういう行政職員の相談相手になれるかが問題としてあるが、クリエイティブな発想を持ち込むことによって、変わらないもの・動かないものが動き出すきっかけになると考えている。これと併せて、行政職員のためのクリエイティブ思考講座などを継続実施しているが、良い「種」がわかる「水」の人をつくるような取り組みも大切である。

### ③パネルディスカッション

#### ○永田氏

- ・ +クリエイティブゼミの活動は、講師をしていた職員研修を通して、本当に悩んでいる職員から相談の連絡が来るようになったことがきっかけで始まった。悩んでいる行政職員といかに接点を作るかが重要であるため、新本庁舎低層部のラボ機能の一つにある Policy Lab.のように、市役所と近い場所に相談に乗れる存在がいることはとても良いと思う。
- ・ 新本庁舎低層部での活動の意義は、「いろんな人が交流する・賑わいを作る」、「地域が豊かになるためのモデルを生む」の二つがあると思う。後者に関して、「KIITO:300 (キイト サンマルマル)」の事例から、単純なアイデアとして、キッチンがあると非常に有効だと思う。KIITO では子どもたちのパーティーやパンじいたちの部室など、キッチンが日常的に使われる場となっている。
- ・ 仙台市が今やろうとしていることは、ハードルは高いが、新しいモデルとなることなので楽しみにしている。

#### ○内川氏

- ・ 永田氏のレクチャーを受けて、イベントやプログラムは「旗」であり、「旗」を掲げた人を応援してくれる人たちも一緒になって育んでいくことが大事だと改めて思った。
- ・ 札幌のアカプラでは、赤レンガ庁舎とその前で皆がのんびりとしている空間を大切にしたい景色として考えて運営しており、そこで「新しい素敵」が生まれてほしいと思っている。
- ・ 日常的に運営する上では、誰かが困る状況を作り出さないことに気をつけている。利用者も風景を作る一員として捉えており、そのことを理解してもらった人に出店してもらっている。
- ・ アカプラは地上の空間なので、冬場は積雪で稼働が少なく、夏に短期集中でイベント等をしている。またオフィス街にあるため、そこで働く人たちを優先して、イベントなどがなくても景色として居心地が良いなと思えるような空間を作ることを意識している。一方でチ・カ・ホは一年中イベントをしており、地下と地上が使い分けられている。仙台市の低層部等一体的利活用エリアでもこのような使い分けが生じると思っている。すごく賑わっている空間もあれば、少し静かな場所も欲しいという市民もいると思うので、運営事業者だけでなく市民も一緒になってそのようなゾーニングやプランニングができると良い。

#### ○馬場氏

- ・ 永田氏のレクチャーを聞いて、言葉の作り方の上手さ、子どもたちや高齢者をうまく誘い込む仕組みが勉強になった。新本庁舎低層部が KIITO のような空間となり、そこで活動が行われたら、とても幸せな雰囲気だろうということがよく想像できた。企業を巻き込むようなしたたかさも必要で、それを自然とできるような空気感を作ることが大事であると認識した。
- ・ 最近は写真をたくさん撮る人が増えてきていて、自分が今どんな風景の中にいるのかを意識している人が多いのではないかと。自分でも施設をどう作るかという視点だけでなく、いかにグッとくる風景を作れるかということも重視するようになっており、風景から逆算していくという考え方はとても良いのではないかと。その中で、低層部を運営する民間事業者と仙台市がある種の共犯関係となることがポイントとしてある。行政が提示したルールを民間事業者が飲み込むというこれまでの慣例的なやり方より、行政側が KIITO に助けを求める構図のように、一緒に条件を考えていくやり方が良いと思う。

#### ○坂本氏

- ・ 市民・NPO・外部の人たちに対して、「関わり代」をいかに広げていけるかが大切だと認識した。
- ・ 低層部を運営する民間事業者を選んでいく過程において、透明性を確保しつつ、市ができることを提示した上で民間事業者に提案をしてもらえるようにしたい。

#### ④質疑応答

- ・ 質疑応答オンラインサービスを用い、参加者からの質問および意見の聴取を行い、コーディネーターとパネリストがいくつかの質問・意見を選び、共有した。

##### (質問1)

- ・ 新本庁舎低層部に KIITO のような機能ができて、一般の市民はどのように関わって良いかわからない。一般の市民でも関わりやすい空間・場づくりのポイント、できることを教えていただきたい。
  - (永田氏) 一般の市民でも関わりやすいプログラム・種づくりのポイントは、関わりたいと思っている人に「関わり代」を用意することである。ジャンルやテーマ、規模によって、色々なバリエーションの関わり代が生まれ、そこに色々な人が関わることで新たな交流も生まれる。

##### (質問2)

- ・ 地元の市民や関係者に使ってもらおうというのも大事だと思うが、市役所の職員も一番の市民プレーヤーだと思う。市役所の職員が自発的にやってみたいこと、楽しみたいことが施設の周辺にあらわれても面白いのではないかと。市役所の職員が楽しんでいる

風景が一番市民にも面白さが伝わるように思う。

- (内川氏) チ・カ・ホでは、まちづくりの部署以外の人も含めて札幌市とのワークショップを開催している。市役所職員も含め市民の人の「こうしたい」という夢を受け入れられるような受け皿を用意することが一つの課題である。

(質問3)

- ・ 低層部等一体的利活用エリアの運営事業者にはどのような素質が求められるか。また、KIITOの運営体制について教えていただきたい。
  - (馬場氏) サービス精神があり、来てくれる人を楽しませようとする人というのが大前提としてあるように思う。
  - (永田氏) KIITOの組織体制に関して、施設管理部門と事業企画部門が完全に分かれている。事業企画部門は正社員8人の少数精鋭で運営しているが、サポーターが100人、200人単位で登録されている。
  - (永田氏) 市と民間事業者の信頼関係の築き方として重要だと思うのが、ブランディングとプロジェクト検証の仕組みの二つである。後者はKIITOでもまだ十分な対応ができていないが、JICAのPDM(Project Design Matrix)というプロジェクト検証方法は一緒に達成目標を作りながらプロジェクトを進め、次に続く活動の指針になる点でよくできていると思う。これから行政と民間事業者との評価・検証の仕組みを考えていく必要がある。

(質問4)

- ・ 「水」の人として行政職員に求めたいものは具体的に何か？
  - (永田氏) 「水」の人としての行政職員やKIITOのような人になるためには、まずは研修を実施することが重要と考える。その上で現場での場数を踏むことが大事だと思う。

### 3 参加者アンケートに寄せられた主なご意見

- ・ 市民に開放される場所を真剣に考えるのは、素晴らしいと思う。他のまちの先進事例を勉強できる、このようなシンポジウムを何度も開催し、知恵を集めるのが良い。次回もこのようなシンポジウムが開催されることを大いに期待する。
- ・ 新本庁舎低層部の利活用の具体的なイメージができ、よりいい場をつくっていきけるようになってくることから始めていきたい。
- ・ 運営事業者の選定にあたっては、単一団体では難しいと考える。低層部等一体的利活用エリアの盛り上げにあたっては、NPO等のアイデアも必要だが、そこに惜しみなく資本／資産を投入できる民間の仲間の力も必要ではないか。
- ・ 魅力的なエリアづくりに向けて、沿道ビルオーナーの立場からも継続的にアイデアを出し、地域の方々と関わっていきたい。
- ・ イベント利用も大事だと思うが、大半を占める日常的な利用も念頭に進めて欲しい。

- Policy Lab の取り組みとして、市民とプレイヤー、行政、政治がつながるような対話のできる空間づくりをしてみたい。
- 低層部等一体的利活用エリアで、多様な活動を生むきっかけを探る実験的な活動をしたい。
- 低層部等一体的利活用エリアで何ができるのか、何を目指しているのか掴めなかった。
- 仙台市の今後の運営方法や新本庁舎低層部のあり方について、もう少し具体的なディスカッションして欲しかった。仙台市が何をやっていくべきなのか、パースに対するアドバイスなどがパネリストからあるべきだと感じた。

以上